

◇ 行事報告 ◇

3月18日（木）摩利支天月例祭

本堂にて読誦会と摩利支天月例祭を執行しました。

本堂では、次のようなお話がありました。

3月は、彼岸月で、中日には昼と夜の時間が同じになります。それ以降どんどん昼間が長くなり、今年も暑い夏が来るのではないかと思います。新型コロナが早く収束に向かうことを祈る日々です。

さて、最近では、新型コロナウイルスの影響で、行動が自由にならない為かイライラする方が多いように見受けられます。このイライラ「怒り」とは何でしょうか。

仏教では人間の悪い思いに三種類あり、これを三毒とっております。求めて終わりのない心を「貪」（トン・むさぼり）、恥知らずな行いをしてしまう心を「痴」（チ：愚かさ・愚痴・無知）、と「いかり」です。

実は仏教での「いかり」は「瞋」（真実を目にする）と書きます。これが怒りとは不思議です。「瞋」のつくりの上部の「匕」は「化」だそうで、亡くなった人をさすのだそうです。下部の「𠂔」は首を逆さにした形だそうで、行き倒れの死者を意味する。行き倒れの死者＝激しい怒りを持つ者とされ恐れられたようです。人間の最後の表情で「まこと（真）」を「見る（目）」のです。日蓮聖人は信徒が亡くなられた時、「どのような顔でしたか」と問われています。「御題目を唱えて穏やかな表情で逝かれること」を最上のものとされ、行き倒れの人も穏やかになれるように丁重に「填（うずめ）」て、その霊を「鎮（しずめ）」たのです。みな、「眞」の字があります。ちなみに塔婆の頭の部分はお釈迦様のお骨を安置された塔（ストゥーパ）を表しています。そこに題目を浄書し、為の下に書かれた霊位を供養する形はまさに丁重に弔い鎮める



形なのです。

彼岸の中日は、昼間（彼岸・あの世）と夜間（此岸・此の世）の長さが同じで、思い（御経、布施など）が通じやすいとされています。ご先祖様や有縁無縁の霊位に布施をし、功德を積んで下さい。きっと感謝して下さる事と思います。

◇ 行事案内 ◇

摩利支天月例祭

5月18日（火）、6月18日（金）午前10時より執行いたします。

多くの摩利支天様がお座り頂いた御宝前にて各家の家内安全、身体健全を祈願し、お加持を受けます。皆様のご参加をお待ちしております。

なお、お供えは、摩利支天様一体千円以上、お賽銭百円以上を申し受けます。

◇ 近況 ◇

本年は、境内の花々が例年より早く咲き、心を和ませてくれています。この花たちのように笑顔で周りの人を和ませる事（和顔施・布施の一つ）ができるよう日々過ごしていきたいですね。

コロナ禍で窮屈な日にですが、うがい、手洗いをこまめにして、元気で明るく過ごしましょう。



合 掌